

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

磨きはつらいよ？

JSC 貿易部ニュース 中国編

うららかな春の日和となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？
突然ですが、今年の年末に、ある国民的映画が23年振りに上映となるのをご存知でしょうか？

それは「男はつらいよ」でございます。



今回は、シリーズ50作目でございます(^)
1969年が第一作目なので相当歴史ある映画ですね。

「わたくし生まれも育ちも葛飾柴又です」って、やや古いですかね？(笑)

今回、主題歌はサザンオールスターズの桑田佳祐さんが歌います。桑田さんご本人も映画に出演予定とのこと。

主演の「寅さん」こと渥美清さんが亡くなられて23年がたちました。

わたし自身、小さい頃にテレビでよく見ていた「寅さんシリーズ」ですが、この50作目は渥美清さんがいない中でのストーリーなので、どんな展開になるのか、

今から楽しみです。ファンの方は是非劇場へ足をお運びくださいませ(^)

続きまして中国の工場でのお話。

中国の厦門へ久々の出張。

「わたくし、生まれも育ちも関西です(^)」が…

先月は東京に出張しましたが、これまでの人生、東京へ行くよりも厦門へ行った回数の方が圧倒的に多いので、実は日本の東京より厦門の方が慣れた感じです(^_^;)

久しぶりの厦門で目にした光景！ ↓↓↓

街中で急須が浮いていました。この珍百景、廈門らしさです(笑)



さて、今回も取引先の主な工場を訪問して来ました。旧正月が明けて間もない崇武の各工場では、大磨きの職人さんの給料値上げ問題に社長たちが頭を抱えておりました。

いま中国で何が起きているのか!?

いま、現地では日本向けの墓石製品を作る大磨きを職人さん達が「給料と仕事の大変さの割が合わない!」「やっつけられない!」という理由で中国国内向けの石材工場へ転職してしまうケースが相次いでいます。

中国国内向けの工場では、日本向けとは逆に残業も無く、磨き光度の要求も低いので比較的楽に多くの給料を稼げます。

また、もともと大磨きの職人さんは切削や造形、手磨きといったほかの部署の職人さんと比べても、体力的にもつらく長時間労働です。一日中腰にかなりの力を入れるので腰痛にもなりやすいようです(><)



年齢的にも 40 代半ばから 50 代の方々が多く、体力的にも長時間の重労働がきつくなり始めてきています。

そして、いま若い人はこの職には就きません…

どの工場でも大磨き職人が不足し、人手不足のしわ寄せもあって、冗談抜きで本当に「磨きはつらいよ」です。

みんな、かなりつらそうです。(> <)

各工場の経営者は、将来を考えて新たに若い大磨き職人を確保しようとしていますが、採用は難しく、先ずは今いる職人さんの引き留めに必死です。工場によっては給料を上げたりもしていますが、他の工場との価格競争もあるので、それが出来ない工場では職人さんを飲み会に連れていったり、食事会を開いてなだめたりしています。

経営者にとっては「注文」も大事ですが、磨き職人さんがいなければ製品は完成しません。人手不足倒産の可能性も出て来るので、どこの工場も磨きの職人さんを大事にしています。経営者も大磨き職人も本当に頑張っておられます。

また最近は、磨きの問題だけでなく造形においても、他の注文の生産速度に影響出ることからという理由で、「この地域の形は難しく加工時間が掛かるから、注文は週／何基以内にして下さい」というような要求がくる事もあります。各工程の職人さんは、より簡単な形や加工を希望し仕事を選んでいる現状があります。

頭の痛い問題ではありますが、私たち仕入部門と致しましても、起きている問題の本質を認識し、改善策を考え、引き続き良い製品がお届けできるよう努力してまいります。

皆様におかれましても、上述の状況をご理解頂き、複雑な加工の商品は以前よりも余裕を持った納期で対応頂くよう、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。m(_ _)m

さて、今月の石のお話しです。

ピンクの 663 の山が停止し、大幅値上げしてから、何種類かのピンクの石が出てきました。ここ最近、多くの工場が取り扱っているピンクは「G617」でございます。



この「G617」、下の写真のように黒の粒子がございますが、全体的にはピンクの色調が強く、価格も G663 よりお求めやすく、今のところ G663 の代用としては有望かと思えます。



左が 663

右が新 663 (617)

福建省の石ですので、他の石種同様に丁場は停止しておりますが、これまでも建材用として取り扱われており、まだ原石在庫は大量にございます。一度お試しくださいませ(^ ^)

今月号も最後まで読んでいただきありがとうございます。

若草萌える好季節、皆様の益々のご健勝を、ご健康を心よりお祈り申し上げます。
では、また次回のメルマガお楽しみにしてくださいませ。

2019/04/01